

三重県企業国際展開推進協議会「企画運営委員会」 会議概要

日 時：令和3年9月30日（木） 10：00～12：00

方 法：ZOOMによるWEB会議

出席者：三林委員長、前嶋氏（林委員の代理）、梶原委員、佐波委員、島上委員、西場委員、西村委員、林委員、福永委員、益川氏（長谷川委員の代理）、南川委員、山田委員、山本委員、吉仲委員、渡部委員（計15名 委員長以外五十音順）

会議概要：

1 委員長の選任について

委員の互選により、三林委員が委員長に選任されました。

なお、設置要綱第5条第2項の規定により、委員長は本協議会の会長を兼任します。

2 みえ国際展開に関する基本方針の改定について

事務局から資料3により基本方針の改定版(素案)について説明し、概ね承認されました。

【委員意見】

脱炭素

- ・環境分野の記述を増やしてほしい。特に脱炭素等の記述は、今の時代の潮流に照らしてさらに増やすべき。

コロナ

- ・コロナが落ち着いても以前のようなビジネスの形態には戻らない。デジタル技術の活用はアフターコロナにおいても重要な意味を持ち続けるだろう。県内企業のDXのレベルを底上げしたい。
- ・コロナで打撃を受けたものの、海外サプライチェーン多元化・販路拡大支援補助金への応募状況を鑑みるに、県内企業の海外進出への意欲はコロナ前と変わらず旺盛。

人材育成・確保

- ・県内大学への外国人留学生に対してインターンシップなど県内企業との交流の機会を用意して縁を結んでおくと、その留学生が将来母国へ帰国して活躍するとなった際に生きてくる。

ロジスティクス

- ・世界的なコンテナ不足や運賃の上昇等、課題の多いロジスティクス分野での補助が必要。

重点国

- ・食の観点からいえば中華圏はとても重要。台湾に加え、香港、中国も追加してほしい。

国際展開を推進する体制づくり

- ・海外進出に既に着手している企業には水先案内人となっていただき、彼らが構築したネットワークを活かせるとうい。
- ・県やJETRO等、各機関が持つネットワークを加味し、最大限活用できる協力体制を構築すべき。

国際展開を志す企業に求められるもの

- ・海外展開といっても企業によって様々。各企業には何をどこへ売るかの戦略を各自で明確に持つことが求められる。
- ・マーケットインの考え方で戦略を立てないと海外では売れない。本当に相手が欲しいものを用意しなければ成約に結びつかないということを、海外展開を目指す企業は自覚する必要がある。
- ・海外に本気で進出するならリスクを取る覚悟が企業にも必要。
- ・覚悟は最終的には相手との信頼関係につながる。三重県の企業には海外との信頼関係を構築できる潜在能力が十分ある。

その他

- ・今一度、過去の取り組みの検証・評価をしっかりと行うべき。
- ・県内の一次産業は、国内需要が落ちていく中で体力がある。戦略的に一次産業の産品をどうブラッシュアップして売れるように持っていくかを考えていく必要がある。
- ・英語で海外企業と直接やり取りできない企業が多数。せっかく海外企業と名刺を交換し、帰国してから英語のメールを受けても、英語が分からないため進展できない。